

平成27年度年度末 学校評価アンケート結果

福島県立只見高等学校

12月に生徒、保護者、教員を対象とした今年度の学校評価アンケートを実施しました。その結果をお知らせいたします。(アンケート回収率：生徒100%、保護者82.5%、教員100%)



1 アンケート項目および評価方法

以下の4つの大項目の中に各5～6の小項目を設け、4段階(A～D)※で評価しました。

※
A:「はい」
B:どちらかといえば「はい」
C:どちらかといえば「いいえ」

- I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)
- II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)
- III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)
- IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

2 アンケート結果

※達成度=評価Aを90%,Bを70%,Cを30%,Dを10%として評価者数で平均した値

(1) 各評価者からみた平均達成度(昨年度)

生徒	保護者	教員
66.6%(64.8%)	69.6%(65.6%)	67.8%(65.6%)

(2) 各評価者からみた高い評価(各3項目)

順位	項目	達成度	順位		
			生	保	教
生徒	1 あなたの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	80.8	1	2	1
	2 あなたは部活動等に積極的に取り組んでいますか。(～いましたか。)	78.2	2	1	3
	3 あなたの言葉遣いや礼儀はきちんとしていますか。	76.8	3	7	5
保護者	1 あなたのお子さんは部活動等に積極的に取り組んでいますか。(～いましたか。)	81.7	2	1	3
	2 あなたのお子さんの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	80.3	1	2	1
	3 あなたのお子さんは本校に学んで、人間として成長していると思いますか。	75.2	17	3	11
教員	1 わかる授業をするための工夫をしていますか。	75.9	7	9	1
	1 生徒の服装・頭髪は清潔できちんとしていると思いますか。	75.9	1	2	1
	3 生徒は部活動等に積極的に取り組んでいると思いますか。	74.7	2	1	3

(3) 各評価者からみた低い評価(各3項目)

順位	項目	達成度	順位		
			生	保	教
生徒	21 あなたの問題や悩みに関して相談できる先生はいますか。	50.7	21	19	6
	20 あなたは学力の向上に向けて、計画的に家庭学習を行っていますか。	55.0	20	21	21
	19 あなたは学校生活が楽しいですか。	58.4	19	4	10
保護者	21 あなたのお子さんは、学力向上に向けて計画的に家庭学習を行っていますか。	60.1	20	21	21
	20 学校における生徒指導の方針や方法を理解していますか。	60.9	18	20	14
	19 学校には生徒の悩みや問題に関して相談できる教職員がいますか。	61.8	21	19	6
教員	21 生徒は計画的な家庭学習を行っていますか。	42.9	20	21	21
	20 生徒の進路に関する適性をよく知っていますか。	57.1	11	13	20
	19 生徒や保護者への進路に関する情報提供は十分ですか。	60.6	15	16	19

3 アンケート結果の分析

I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)

全ての教員がわかる授業のための工夫をしていると回答しており、その想いと取組は生徒・保護者にもある程度評価されています。知識偏重ではない総合的な評価結果についても大部分の生徒・保護者に理解して頂いている様子がうかがえました。しかし、授業のレベル設定や課題の量に関しては職員間、及び職員と保護者間で評価が分かれています。学校は個に応じた学力を保证するための具体的手立てをさらに工夫し、そのねらいと期待される効果を保護者に説明する活動を通し、家庭と学校がより生徒支援に協力していく必要があります。



また、生徒の家庭学習習慣については三者が大きな課題と感じているようです。学年によるスコラを通した生活サイクルのチェックとアドバイス、学習ガイダンスや教科担任との面談等をより充実させ、生徒が自らの意志で机に向かう学習環境を作り上げなければなりません。

II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)

本校はLHRや総合的な学習の時間はもとより、多彩な学校行事・講演会を通したガイダンス機能の充実とそれを受けての体験・表現活動を重視しています。それらの活動と個別面談を通し、生徒の進路適性の把握に努めていますが、この「進路適性の把握」を課題と感じている教員が少なからずいるという傾向が見られました。このことが、生徒と十分なコミュニケーションをとりながら根気強く進路指導を行っているという教員側と生徒側の受け止め方の違いにつながったと思われます。「生徒自身が何をやりたいのかが見つからず、進路目標がなかなか決まらない→その結果生徒と保護者間での情報交換が十分に行われない→学校からの情報提供が保護者に伝わらない→進路目標が決まらない」というような悪循環に陥るケースも考えられます。今後さらに対策を練り、保護者の皆様と協力しながら、生徒の可能性を適切に示唆できる進路指導の在り方と生徒が主体的に進路実現の道を探求できる場面を増やしていきたいと考えます。

III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)

服装・頭髪、言葉遣いや礼儀、部活動への参加状況に関しては三者から高い評価、達成感を得られており、これらの点においてはまさに本校の自慢すべき点であると考えます。このことは生徒・保護者の規律を重んじる気持ちの表れであり、学校のぶれない指導体制の積み重ねと考えられます。しかし、教育相談体制や学校の生徒指導方針の説明や理解については、教員と生徒の間でその評価が大きく分かれており、ねらいと目標を明確にした具体的な方策を実行し、改善に努めていく必要があります。学年便りや指導部便りを有効に活用するのはもちろん、PTA総会の出席率を上げる手立てを考え、学校の現状と取組及び成果を丁寧に説明していきたいと思えます。さらに、スクールカウンセラーとの連携を強化し、教員一人一人のカウンセリングマインドをより高め、数字やマニュアルにとらわれすぎない人間味ある生徒支援体制の構築を目指していく必要があります。

IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

校内の清掃状況に関しては三者から高い評価を得られました。特に、教員からの評価は昨年比でも大きく改善しており、毎日の清掃や校内の美化に努める生徒達の小さな心遣いが数字として表れた結果であると思えます。その一方、必要な情報の提供に関して、保護者から見るとまだまだ不足している状況といえるので、紙媒体、電子媒体の長所を生かした適切な情報提供のあり方について再考し、改善を図っていきます。

また、この項目での最大の懸案事項は、「学校が楽しいか」という発問に対し、教員・保護者と生徒との間で大きな隔りがあるということです。「高校生の本音」の部分周囲の大人がうまく理解してあげられない状況があると言っても良いのかもしれませんが、日頃からの生徒との会話をより重視し、家庭との情報共有を図りながら、今後も生徒理解に努めていきます。